

2026年(令和8年)7月4日(土曜日)

東北能開大秋田校

学生確保へ意見交換

運営委
在職者訓練は好調

大館市の秋田職業能力開発短期大学校(愛称・東北能開大秋田校)の運営について話し合う「高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会秋田職能短大部会」が3日、同校



本年度計画などの報告を受けた協議会(東北能開大秋田校)

で開かれた。入校状況や本年度実施計画について報告を受け、学生確保に向けて意見を

出し合った。委員や同校職員が出席。奥山栄樹校長はあいさつで「最大の課題は入校者の激減。外国人の受け入れなどこれまで

取り組んでこなかったことに手を広げたい」と述べた。本年度は定員60人に対し、

生産技術科4人、電子情報技術科18人、住居環境科17人の計39人が入校。定員充足率は65%で前年度から20%上がった。2年生は27人が在籍している。

2025年度修了生は43人。このうち進学は16人、就職は27人で、進路決定率は100%。進学者はすべて東北職業能力開発大学校応用課程

に進んだ。地元就職率は52%だった。25年度は中小企業などの従業員を対象に2〜5日程度で技能・技術向上を図る在職者訓練を85コース実施し、受講者は424人で前年度を上回った。

来春入校生の定員は生産技術科が本年度から5人減って15人、電子情報技術科と住居環境科はそれぞれ20人。卒業後に2年間の応用課程に進学すると大卒同等扱いとなるため、4年制大学のイメージづくりとして「東北能開大秋田校」に愛称を変更。SNS(交流サイト)による生産技術科の広報強化などに取り組む。

委員から「中学生にものづくりの楽しさを知ってもらうなど早い段階で子ども、保護者が関心を持つ取り組みが必要」「地域に学校を残すために知恵を出し合っていかなければいけない」などの意見が出された。